



# 東校だより



7月号

令和5年6月30日  
横浜市立東小学校  
校長 保科 桂子

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/azuma/>

「おこだでませんように」

横浜市立東小学校

校長 保科 桂子

6月になって、体育館の屋根・外壁工事のため校庭は工事囲いをしています。あんなに盛り上がりだした運動会が、まるで夢の中の出来事のように感じます。まちたんけんや見学に出かけたり、7月に行われる日光修学旅行や御岳林間学校に向けて準備を進めたり、学年・学級ごとに学習を深めている東っ子です。

さて、今日は「おこだでませんように」（くすのきしげのり作）という絵本をご紹介します。

「いえでも、がっこうでも、いつもぼくはおこられる。」主人公の「ぼく」は小学校1年生の男の子です。

おかあちゃんの帰りが遅いとき、妹と遊んでやりますが…

「また、いもうと、なかして!」（いもうとのくせに わがままいうからや）

「まだしゅくだいしてないの!」（いもうとと あそんでやってたからや）

休み時間にサッカーの仲間に入れてもらえず、ぼくはパンチをしてしまいます。先生が来て、ぼくだけがおこられます。

「またやったの!」（ふたりが さきに いじわる いうたんや）

「ぼうりょくはいけません!」（でも「なかまに入れてやらへん」といわれたのは、ぼくのこころがもらったパンチやで）

何か言い返しても、先生はもっと怒るに決まっているからと、ぼくは黙って横を向いて怒られています。本当は「ええこやねえ」って言われたいぼくがどうするのか、そしてどんな結末になるのかというのは、ぜひ絵本を読んで確かめてください。

無器用な主人公のように、十分説明できなかつたり、説明するのがめんどうくさくなってしまったりする子どもは決して少なくありません。そして、状況だけを見て子どもを怒ってしまうという場面も日常生活によくあることだと思います。状況だけしか見られないのは、時間がなかつたり、余裕がなかつたり、そう思い込んでしまつたりと、怒る大人にも原因がありそうです。本当に怒る必要があつたのでしょうか。

「子どもが大切」と思っているが、「大切にされている」と子どもが実感できるように伝えることは簡単ではないようです。学校でも家庭でもやらなければならないことは山ほどありますが、まずは「あなたが大切」

「あなたが大好き」という気持ちを伝えてみてはどうでしょう。当たり前のことを言葉にするのは、意外と勇気がいるものですが、無駄なことではありません。

もうすぐ七夕。子どもたちの短冊に書いた願い事が届きますように。暑さに負けず、さわやかな夏をお過ごしください。